

児童虐待防止啓発イベント「虐待の真実」開催！

11月26日（日）13：00～16：00獨協医科大学教育医学棟で児童虐待防止啓発イベント、「虐待の真実」を開催しました。

11月の児童虐待防止推進月間にちなみ開催したこのイベントでは、児童虐待を経験し、大人になった今もその苦しみの中にいる若者達の声を集めたドキュメンタリー映画

「REAL VOICE」の上映会と、鹿沼市の児童養護施設「ネバーランド」施設長の仲江川徹氏による施設の子どもたちの現実についての講演会を行いました。

小雨が降る寒い日にもかかわらず、30名を超える方々にお越しいただき、理不尽な環境に置かれながらも葛藤して生きる子どもたちの姿を、みなさん様々な面持ちで見入っていました。講演会では、普段見ることはない施設での子供たちの生活や、彼らとの葛藤について、実際のエピソードなども交えながらお話していただきました。

12歳の参加者の方は、「私と同じ年の子もこういうつらい思いをしていることを知りました。その子たちを助けられるようなことができたならと思いました。」と感想を寄せてくれました。すぐ身近でこのような現実は起こっていて、その苦しみは大人になり虐待されなくなったからといって終わるわけではないことに、多くの参加者が気づかされたようでした。一方で、家庭の出来事にどこまで介入していいのか、自分に何ができるのか、考えさせられることが多かったようです。1回のイベントで虐待をなくすことはできませんが、地域の人に少しでも関心を持ってもらい、児童虐待について考えてもらえたことは大きな意味があったと思います。



イベント参加学生感想

今回のイベントには1年生の石渡さん、能登君、2年生の長江君の3人がお手伝いしてくれました。また、3人はイベント当日の参加だけでなく、事前に児童養護施設ネバーランドも訪問しました。子供たちとの触れ合いやイベントを通して、児童虐待についてそれぞれ考えるきっかけとなったようです。3人に今回参加した感想を聞きました。



ネバーランド外観（HPより）

今回の児童虐待防止啓発イベントでは、児童養護施設訪問とイベントに参加しました。まず、児童養護施設訪問では、施設内を案内していただいたり、子どもたちと一緒に芋掘りをしたりしました。子どもたちから元気を分けてもらうと同時に、施設の実際を肌で感じました。

イベントでは、虐待された経験のある若者の声を集めたドキュメンタリー映画「REALVOICE」鑑賞と、訪問した児童養護施設の施設長さんのご講演を聴きました。映画の中では、施設訪問の中では感じることもなかった、若者たちの社会に対する生の言葉で溢れていました。また、施設の仕組みを作ったり、子どもと関わったりする中でのシレンマ、そしてそのやりがいを知ることができました。

児童虐待が起こる背景の1つの「孤立」をなくすために、医師として具体的に何ができるのか考えるきっかけになりました。（1年 石渡）

当たり前とはなんだろう。どんなに嫌なことがあっても、例え遠く離れていたとしても、無条件で頼れる大人がいる環境は、本当に当たり前なのだろうか。

今回の訪問で一番印象に残ったのは、一緒に遊んでいる間ずっと子供達がかわるがわる私の側にいたことだ。同年代の子供と接する時間が極めて多い彼らにとって、少し年上の私たちは新鮮に映ったのかもしれない。なんらかの事情で親と暮らせない子たちがどれほど温もりを求めているのか、完全に理解することはできなくとも、想像するとやりきれない気持ちになった。子供は子供だけでは大人になれないのだ。大人からの愛情は、子供社会と関わる時の基盤なのだ。思えば自分も大人から多くの影響を受けた。自分にできることは一緒に遊ぶことだけなのかもしれないが、その時間が彼らにとって少しでも支えとなっていれば非常に嬉しく思う。（1年 能登）

児童養護施設ネバーランドの見学では、子どもたちと遊んでいるときは、他の子どもと変わらない、元気な子供達という印象でした。しかし、その後職員さんと話をする中で、虐待などにより幼少期に十分な愛情を受けないまま育った子供が多いことや、里親に行ったが里親との関係がうまくいかずに施設に戻ってきた子の話などを聞き、虐待から逃れた後も様々な問題があることを知りました。また、イベントで観た映画では、虐待を受けた人が虐待から逃れることができても精神的苦痛などに苦しめられていることを知り、施設での見学も踏まえて、虐待から逃れることができれば全てが解決するわけではなく、その後も様々な問題とも向きあっていかなければならないと知りました。（2年 長江）

施設の子どもたちの特徴として、自己肯定感の低さや発達障害等による気分や行動の問題があると言います。このような子どもたちと日々向き合っている職員の方々には本当に頭が下がると同時に、大変な覚悟で臨まれていることがわかりますね。

それぞれの立場でできることは違いますが、まずは関心を持つこと、知っているのに知らないふりをしないこと、そしてできることを考え続けることが大事だと思います。今回感じたことを忘れずに、これからの大学生活に役立ててくれたらと思います。お手伝いありがとうございました。



編集後記：今回も読んでくれてありがとうございました。今回のイベントでは私自身もいろいろと勉強になりました。公衆衛生の立場でできることを私もしていきたいなと思います。